

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

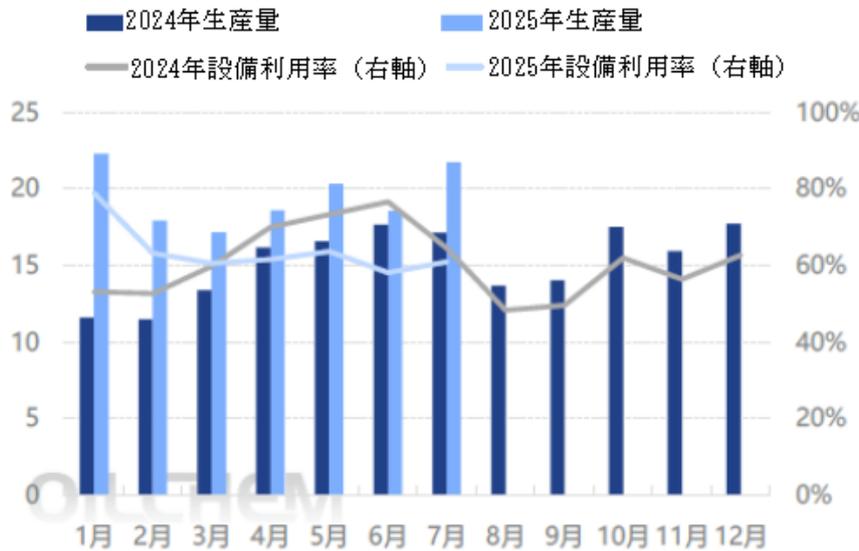
TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

中国の負極材料市場の動向

2025年7月、中国負極材料の市場価格は安定していた。ニードルコークスの価格がやや低下したが、低硫黄分石油コークスの価格が上昇したため、人造黒鉛負極材料の原料コストが上昇傾向にあった。

供給面では、大手企業は稼働率をアップしたため、生産量が増加した。需要面では、動力電池や民生用電子機器産業は鈍化しており、需要が横這いであったが、エネルギー貯蔵産業の需要が増加しており、負極材料の需要は安定的に推移した。

7月、負極材料の生産量は21万6,600トンで、前年同期より26.3%増加した。産業全体の設備利用率は61.01%であった。大手企業が高い稼働率で生産する一方、中小企業の多くは委託加工で低い稼働率を維持し、産業全体の集約度が高くなっている。



出典：隆衆資訊

図1. 月別の負極材料生産量と設備利用率の推移（2024年1月～2025年7月）

リチウムイオン電池用負極材料の平均価格は7月に32,500元/トンで（約67.05万円/トン、1元≒20.63円、以下同）、前月比で横這いとなった。そのうち、ハイエンド製品の価格は42,000～65,000元/トン（86.65～134.10万円/トン）、ミドル製品は21,000～32,000元/トン（43.32～66.02万円/トン）、ローエンド製品は16,000～22,000元/トン（33.01～45.39万円/トン）であった。

図2は人造黒鉛負極材と天然黒鉛負極材の価格推移を示している。

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

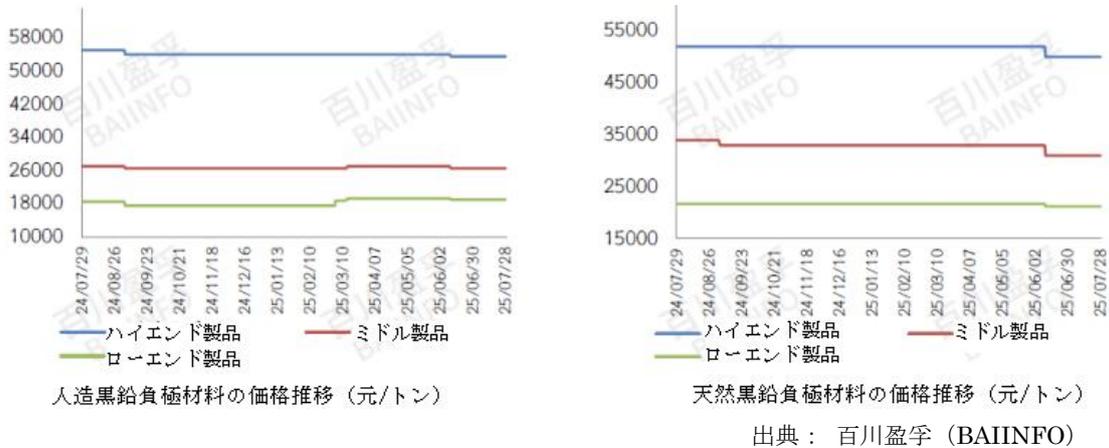


図 2. 人造黒鉛負極材と天然黒鉛負極材の価格推移 (2024 年 3 月~2025 年 7 月)

百川盈孚 (BAINFO) によると、7 月の負極材料コストは約 22,018 元/トン(45.42 万円/トン)で、6 月より 185 元/トン(0.38 万円/トン)高くなった。月末現在、中・低硫黄分石油コークスの平均価格は月初よりそれぞれ 82 元/トン(0.17 万円/トン)、168 元/トン(0.35 万円/トン)上昇した。

ニードルコークスの価格は月初より 66 元/トン(0.14 万円/トン)引き下げられた。黒鉛化加工費は低い水準を維持した。

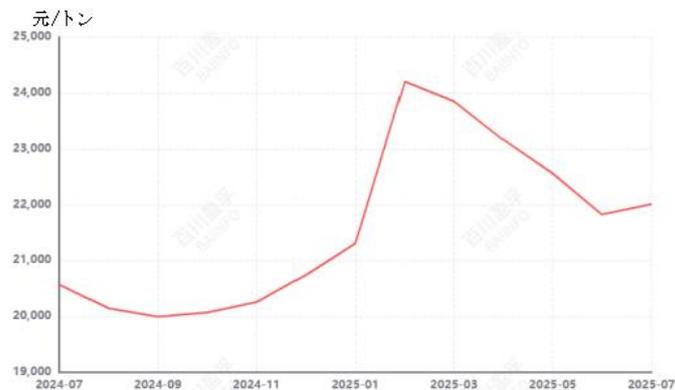


図 3. リチウムイオン電池用負極材料のコストの推移 (2024 年 7 月~2025 年 7 月)

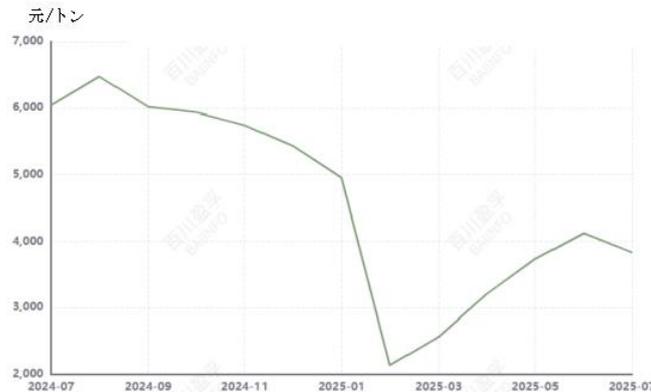
負極材料の価格が横ばいで推移する一方、生産コストは上昇したため、負極材料企業の利益が減少している。

7 月、リチウムイオン電池用負極材料の粗利は 3,833 元/トンで (7.91 万円/トン)、前月より 7% 低下した。

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683



出典：百川盈孚 (BAINFO)

図 4. リチウムイオン電池用負極材料の粗利の推移 (2024 年 7 月~2025 年 7 月)

負極材料の生産能力が過剰気味であるなか、大手企業は余裕のある資金繰りと技術力をいかして市場シェアを高く占めている一方、中小企業は受注を獲得するために低価格競争という問題にぶつかっている。

負極材料産業は低い価格で推移しているため、企業利益が薄いと見られる。特に、黒鉛化加工、粉砕・造粒工程では製品の販売価格がほぼ底値になるため、負極材料価格はこれ以上に値下げすることが無理かと言われている。

情報源：石墨盟